倭漢朗詠集巻下

倭漢朗詠集巻下

鈴木の蔵書

雜

風　雲

曉　松

草　鶴

猶　竹　晴

管絃 付舞妓　文詞 付遺文　酒

山 付山水　水 付漁父　禁中

古京　古宮 付故宅　仙家 付道士 隱倫

山家　田家　隣家

山寺　佛事　僧

閑居　眺望　餞別

行樂　度軍　帝王 付注記

親王 付王孫　郡侯 付執政　將軍

刺史　諫史　王昭君

妓女　遊女　老人

交友　懷舊　述懷

慶賀　祝

無常　白　忘

雜

風

春風暗動庭前樹夜雨偏穿石上苔

杜易乱欲惱明君魂漂水不歸

應送列子之衆

漢主手中吹不驚徐君墳上扇形懸

班姬載扇應譏尚列子懸車不淫遲
あさゝをのゝ
おきの葉もはてゝ
かゝる
小ゝ
月の
山の
雲

竹班湘浦雲凝黛琴之蹤鳳去秦
臺月老吹簫之地
山遠雲埋行客迷杜甫風破擣人夢
晝日墮雲心不整看時見月夜正閑
澄皓魄秦之朔望礙孤峯之月陶
朱猗越之暮眼濕洞庭之煙
暫借清巡非載酒徐後論豈生杯

漢帝龍頌迷處所淮王雞翅失西連
ようにのを見てやみなむうつまや
たまれる出のうるれしーーー雲

晴

煙消門外青山近霧霽窓前綠竹低
鑾蓋之嶺嵐踈雲收七百里之外
曝布之泉波次月澄澤十尺之餘

雲消碧落天廣解風動清漪水面皺
雙鶴出臯披霧舞孤連水白雲消
歸嶺鶴翠日高見飲潛龍昇雲不殘
かすみはきそらのくもをはらひて
あらうれきかなあらふいとゆふ

曉

佳人畫鐘於晨粧魏宮鐘動於遊子

行き幾月函谷鷄鳴
幾行南去之鷹一行西頃之月
赴沓路獨行之子梅店形扁注孤
城百戰之帥胡笳未歌
影粧金屋之中青燈正無羅宴
殤遊之上紅燭之餘

又聲言海物明後一點之燈欲滅時
ありつるものなりまし　はたちつゆの
をさまりまし　ぬ　ゆ　ま　や

杜

但有雙杜當砌下更無一事到心中

青山背雪諸杜性孤落紅雨雪梅鶴心

子文清雪雁吟秋廉之姿百步乱風

作破蓋雷射

九夏之伏之暑月竹合鎖午之風

玄冬素雪之寒朝松彩君子之德

十八公葉霜後彩一千年色雪中深

合雨嶺松天更霧燒秋林葉少還寒

松ちは なちさしたる ちる 強し

いまひとしおの色 作り 計る

見れみなくりひさうくなりぬすみよしの

きしのひめまついとる色あらん

あまくもはあり人うえのあひとひを

おりへはひさしきみとしまつ

竹

煙葉蒙籠假夜色風枝蘭綱欲林葬

院籍喘場人步月子猷看雪島栖煙

晉騎兵參軍王子猷載稱世君唐太

子賓客白樂天愛吾友

遊筆茶抽吟風管盤根繞黙所龍文

[illegible]

[illegible]

草

沙頭雨深班〻草水面風駘駘〻波

西施頭色今何在春風百草頭

孰算屬之草滋頭渺之巷蔡薹

深鎌雨濕原邃之極

草色雪晴初布濩鳥聲霧暖漸綿密

美山有馬歸牧傳野無人踏漸滋

[illegible]

やうきもとうはの月のまもせうれん野を

鶴

過少人而踏高位鶴有余行恩利
以て寰邦家崔結宰屋
同李陵之入胡但見異類似虜原
在楚衆人皆醉

聲柔抗上子年鶴影落壺中老峯
清嘴數叢松下鶴寒光一殘竹間燈
雙棲庭前花落處數聲池上月明時
鶴歸舊里丁令威之詞可聽龍近彩
儀陶安山之駕在眼
飢龍性躁恐〻乳老鶴心閑緩〻眠

叫漢遠驚孤枕夢和風湯入玄絃彈
わのうに京みやこ
何へをけてうつきさわる
相思の心をこめさうおう
夢こゝ絃出あり
あけうせ井のうにかうられ
なるうち井よりかうへき

猿

瑤臺霜滿一聲猿玄鶴猿天已暁

秋深五夜こゝ聞猿叫月
江流巴峽初成字猿過巫陽始斷腸
三聲猿後巴鄉渡一葉舟中載病身
胡鷹一聲秋破高窓こゝ夢巴猿之
叫曉雲行人之袖
曉猿羅深猿一叫暮林花落鳥先啼

谷靜殘河山多德拂花斜踏陵糟拜

管絃 付舞妓

一聲鳳管秋驚秦嶺之雲數拍

霓裳曉送巫山之月

第一第二絃索 秋風拂松疎韻落

第三第四絃冷冷夜鶴憶子籠中鳴

第五絃聲尤掩抑瀧水凍咽流不得

隨分管絃還自足等閑篇詠被人知

頻令燈下裁衣婦誤前同心一行花

羅綺之為重衣妬無情於機婦

管絃之在長曲怒不關於伶人

落梅曲舊屠吹雪析析聲新手掬煙
相如昔挑文君得莫使簾中子細聽
[illegible]

文詞 付遺文

沈詞拂恍若游魚銜鈎出深淵之底
浮藻連翩若鎔鳥翼繳隱雷雲之後

遺文三十軸粼粼金玉聲龍門原上
古埋骨不埋名
言語巧偷鸚鵡舌文章分得鳳凰毛
錦帳曉開雲母殿白珠秋寫水精盤
昨日山中之本才取諸己今日庭
前之花詞悉於人

王朗の弟の孫摠徐蔭事の意を
江淹一時の友集范別駕の遺文
陳孔璋伺の愈病馬相如賦只渡雲
贈寄新恩銘刻石獲麟後集世説
はるかのふきの
なるをみるにつけて
なりをみるにつけて
消

新芽清を清水に
示す鶴鳴の章中書
示す幽鳴の風風雅の意
蕭蕭成物の美刻伯倫嘯酒絶
逸世の待於世唐七子高蕭
示す二嘯酒徒海内漢
陽風物秋秋蕭蕭人

雪白如霜 紫陽紅不見春
生計拋來詩是業家園忘却酒為鄉
藥能伐骨可切沙莫管馬蹄可以察微
芳史業詩無餘事必業不二
賤以民為國四時物候溫和為溫
為歡之所一日來去往之時也

一 草色上林飛之 江城合自流
須見下馬村之露 衡歌舞
先遠行之籍由心尊 潮繁劇休自在風
花徽津涯收月出 境橋邊 伊深坐臣
王勳之露 案不得絕勝原出雲遊傳花
阿理安針當今恨毒 真懷游之津歸舟
由加人世吾不飛之 以為 然也於毎無中

山

岱黛迥臨蒼海上泉聲遥落白雲中
勝地本来無定主大都山属愛山人
夜鶴眠驚松月苦暁鼯飛落峡煙寒
紈扇拖来青岱黛露羅惟卷却翠屏明
衆籟暁興林頂老群源暮叩谷心寒

なのみしてやまはみかさもなかりけり
あさひゆふひのさすにうありける
くものゐるこしのしらやまたひにけり
おほくのこしのゆきつもりつ
みわたせはまつのはしるさよしのやま
いくとつもれるゆきにかあるらむ

泰山不讓土壤故能成其高河海
不厭細流故能成其深

巴猿一叫停舟於明月峽々色明
馬色嘶共路於黄砂磧々光
礙日暮山青漢々渡天秋水白茫々
漁舟火影寒燒浪驛訥鈴聲和遠山
山似屏風江似帶叩舷來往月明中
草木枝踈春風拂山祇々駿魚龍接

戍秋水字汀洲之民
韓廉獨泛々棲花藥如春色泥蓑扁
舟々泊煙波堆新
山復山何工削成青巖々形水復水
淮象深出影潭々多
山郎遠樹雲開處又海蓬孤村日暮時

山巌向背斜 陽寛水似廻瀬匝瀲間
非きいのともろみきしやくつらん
なくさ乃川の名のふかふ
名 対涯之
急漾之牧尋来鮫早沙時く川遊
泝帆来先春遊夜 芦寒し
御香桂名柳仏も沙暁日晴香補遊帳

帆歩前筆瀬井ちあ細満梅歩寛り
名録源寶河居月筆羽扇人ゆ瀬差
蘇篇杉鴎青港酒能艇舟瀬和浙灘
墨客杉之人流居庭之末や
林名りけんお河雲文字筆法ろ時や
無碩春ある連晴思は浮移そるる

楊柳志峰也府路之盛く松紅曲ハ河
洲以別京錦様更文為庭様之隔岸河
日御隠平孫為幽鶯風以嵐叢是為瑞風寒く
東く青亀天龍乃加く衛以之左右親為波
左理の衛とや皇為降と以舟頭ん
笑船加く衛乃浅多絶之萬乳志寒乃世示
為是如く花寸雨籬閑乃之津

禁中

風渫浪爾秋秋寒銭蕭索ス以前蕭山
秋月高懸虚空仙路静穏紫園易
千仙人縫以月香元厳角翠隆盛
雞人暁鳴祥鐘之眠覚鐘
鳴鶯漸晴之之経
夕雨前後暮秋小洲序暮碁帖

いやしくもこゝろありし　能々知人あらはこそ
わきても　さら猶葉のちりかたよりも
ゆふへの露たにもろきや　心ある人の津まり
雪の下庵　古き思ひ出　いらまし

忠泉

照葉なと萩花紅葉の露落葉家
いかなる月見　ふる露　まや　こゝろよきてこれこそ
むかし　かいはし花さくに　かへり

旅宿　月前雪

飛春花桃李描春且色花落飛
墻壊半枯李林荒
庭似深林稿鷭飛真珠不満韵
了鶴草織尽未荊棘始雑庭露滿
墨春香霞半扉掩鐵功安抜行
老鶴泛来仙洞和雪香姥　樓花

秋花處々露啼　秋樹蕭々烏楊風雨疎雖
薄葉雖見露枯葉流涼閑中風起於地
向晩籬外生白露秋菊庭前見人来

こゝみまくてなかりけり　なにしかもまた
うつろひしくさもみしわするれ
きのふまてあはれなる中のいさゆかり
月のかけみを袖にぬまり
いかにへはなきをやひとのおもふみけむ
ひまはなれそむしつれ

十六

仙家　付道士　隠倫

壺中天地乾坤外　夢裏身名旦暮間

藥爐有火丹應伏　雲碓無人水自舂

山底採薇雲不厭　洞中栽樹鶴先知

三壺雲浮七万里之程分浪　五城霞峙十二樓之構揷天

奇犬吠花聲溪於紅桃之浦鶯
風振葉香分紫槿之林
謬入仙家雖為業日之客恐歸
舊里纔逢士女之孫
毋寔道成仙玉靜山中乘白月兼信
石床苗洞風之松玉乘拖無名物中

下二十

桃李之春雲霧之春楊柳
日為一生之雲霧之春楊
高山月為秋猿之影之清楊
思沼之春之清洞庭之晚雲孤
鶴翼源羅洞月弱源之春楊一蹤
如思大仙之春人乃歌之清水
山之春於日思之春

山家

遺愛寺鐘欹枕聽香爐峯雪撥簾看
蘭若花時錦帳下廬山雨夜草菴中
漁父曉船分浦釣牧童寒笛倚牛吹
王尚書之蓮府麗則麗堦墀之紅頰之賓幽中幽則
竹林幽幽婦姑非素論之士
南望則有湖路之長行人往馬駱
驛於翠篠之下東顧則有林塘
之妙紫鶴白鷗遊於朱檐之前
山路日暮滿耳者樵歌牧笛之聲
洞戶夕陽盈眼者行雨歸雲之色

南面貴人出家遠行洞窟修行
時はまこと山陰の面白き所
編石畳生枝の間岸晴雲出平
やまとはよろしく
ようさとはをみくつりけり
山さとはゆうぐれけふ
人やとらもまあと地人

四番

結縁坊秘密編まこと雅楽帝屋新篇
古象一大乗人時新敷野雲月橋保
野移印時嘉家嘉藤山陸中白稲穂風
萬家村風吹萬豊源清屋橋雲
時萬乱人よせく山はあ
とれ出ろ武蔵ろれ
吹すとはまるつを
あり雲たとはさ山ひけ書

きみふゝ秋もかくいはゞいはのたに
しらず宗をにしてあまりものふで

隠家

明月好同三径夜 緑楊宜作両家春
何独終身数相見 子孫長作隔墻人
地色不来見何人問 谷深楽為隠者
蘿窓傾数 松卷晝房家書

蒼檀遙稀嶺巌晴洞溜分根
こゝろんやとわけるかきこしまつ
うつすさんとこゝろむくみるか

山寺

千株松下雙峯寺 一葉舟中万里身
更無俗物當人眼 但有泉聲洗我心
不改朝天之門便作求車之所不變

閲水之槁以為到岸之途
策馬来肯只思風煙也可散逢僧
談處漸覺世俗之皆空
人如鳥路穿雲出地是龍門跡水登
三千世界眼前盡十二月緣心裏空
泉飛雨洗聲聞夢菜落風吹色相秋

[illegible]

佛事

月隱重山岑聲扇喻之風息大虛
岑動樹教之
願以今生世俗文字葉任言綺語之

誤飜為當来世 ニ讃佛乗 回轉法輪
之縁
百千万劫菩提種八十三年功德林
十方佛 土之中 以西方為望九
品蓮臺之間雖下品應已
雖十悪当 猶引構甚於疾風之披

雲霧雖一念当必感應喩之巨海
之納消露
昔切利天之安居九十日刻赤梅檀
而摸尊容今拔提河之滅度二千年
治紫磨金而礼爾已
浪洗欲消鞭竹馬而不顧雨打易

破闘芥鷄而長忘
念極樂之尊一夜山月正圓先勾曲
之會三朝洞花欲落
玉磬敲思絃管奏衲衣僧代綺羅人
眼蓮豈養清涼水面月長留十五天
以佛神通爭酌盡經僧祇劫欲朝宗

叩凍員来寒谷月拂霜拾盡暮山雲
已終未習千季侵初得難逢一乘文

[illegible]

僧

蒼茫霧雨之霖初霽汀鷺亭亭疊
煙嵐之斷處晚雲僧坊
野寺彷彿僧歸常月芳林掃雪醉眠花
雲有無儀算以逗留於中天之月哉

有所延莫以偃息於五雲之雲
明統作用隨境照日雲不着下山來
觀空淨侶心懸月道老高僧首剃君
鶴岡翅刷千年雪僧老眉垂八字霜
[illegible]
よの中ふうけしのいつ紙いうそ[illegible]

ミわたのきよれるすきてし
わかをとはふまちやけるむ

閑居

不獨就東都履道里有閑居泰適
之趣亦令知皇唐大和歲有理世安
樂之音

宮車一去橋基久十二長亭隙駒
雖迅綽羅之三千暗老
幽思不窮深巷無人之處慈鵲欲鳴
閑窓有月之時
鸞籠閉處見君子書卷展時逢故人
人間榮耀因緣淺林下幽閑氣味深
宮途自此心長別世事從人口不言

蕙帯羅衣抽簪於北山之小蘭橈
桂櫂敲舷於東海之東
都府樓繞看瓦色觀音寺只聽鐘聲
晩路未抛苔徑月避喧猶聞竹窓風
陶門絶絶春朝雨蕭蕭多裏秋樹葉
わうもはみちもなさこまくあまりくりう
つるさ人をとらしまふ

眺望

風飄白浪花千片鷹點青天字一行
出塞圖而東望山岳半掃雲根之暗
躋翠嶺而西顧家鄉惹沒煙樹之深
見天台山之高巖四十丈尺波白望
長安城之遠樹百千万萱齊青

江霞隔浦人燈遠湖水連天鷹影遥
一行斜鷹雲端滅三月餘花野外飛
老眼易迷殘雨後春情難盡夕陽前
いとゝまけやかきさゝゝをこきさをて
ゆくゝはるのゝ

餞別

白君後會知何處為我今朝畫一圖

前金程遠馳思於鳳山之暮雲後
會期遥霑纓於鴻臚之曉濤
昔聚丹島競寸陰於十五年之間今
俱畫熊欲分手於三百里之後
楊岐路滑我之送人多年李門波寒
人之送我何日

万里東来何再日一生西望是長楽
九枝燈盡唯期曉一業舟飛不待秋
欲以浮生朝後會還悲石火向風歇

[illegible]

人よ[illegible]をあけまとも
いのらこうこうこのうちは
なりうつ[illegible]へまき

行樂

孤館宿時風帯雨高楼枕畔水連雲
行々童行々明月使々暁々不書聞々
漫聞々長風浦々蒼茫茫涼
暁入長松々洞巖影咽西嶺猿
吟衆宿扶浦々波寒嵐映西

晦日

渡口郎船風定出波須磯霧日晴看
洲蘆夜雨他郷濃岸柳秋風遠雲情
蒼波路遠雲千里落雁山深月一群
かの〳〵とあれはれのあさきりの
さまかはるまゝゆくあきぬるそらふ
りのはるやはるかけくさまかあと
人まはつけるあるはりみる

たらりあるはいくくやこへつけやらん
ふるくらはのせきハあるあと

度中

寄毛無方樓甲子初度中度中
ふる月寄毛無方樓甲子晴光達
はるかの立はるくさいりふるは
あるやはるさらうるやそれう

帝王

漢高三尺之劒望制諸侯張良一卷
之書立登帥傳
頂疾之會鴻門寄情於一座之客漢
祖之歸沛郡傷恩於四方之風
四海安危照掌內百王理亂懸心中
幸逢堯舜無爲化得作犧皇同上人

雲皇自在長生殿不同蓬萊王母家
仁流秋津洲之外惠茂瀛波山之陰
渊爽作瀨之聲寂寞之間口砂長爲巖
之頂洋洋滿耳
梁文昔遊春王之月漸落周穆新
會西母之雲欲歸

布政之庭風流未必歇於嘉國之
者此地也好文之世德化未必之干黄
実兼之者我君也
榮啓期之歌三樂未到常樂之門
皇甫謐之述百王形瞻法王之道
玉扆日臨文鳳見紅旗風卷畫龍揚

刑禮兼行遠寄之深波若深鳥不驚
ものうりさうやこのもれあるを
いはもるをちやもあれも
ちりぬれとまくらはそれぬり
ふるせのらは者をこのまん

親王 付王孫

庫車次攀貴公貴紅縄馬嘉家郎
東平蓋之雅量寧非漢皇慶貴妃

雙之第弐揺陽鑠之文鐸之見磨
帝寵愛第八之子也屏風其後高
江都之好勁艇也七尺
淮南之求神仙也一且乘雲而行蓋
開卷已知為子道秋風悵望斷湖雲
我至孝行先何到梧桐秋風一斤煙

此花非是人間種殘樹枝頭第二花
此花脆弱人間稀再叢平基一斤露
いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしえひもせす
亞相 付執改
李文子妾不衣帛魯人以為義侠云
孫弘身脚布被汲黯譏其多詐

百里奚乞食於道路穆公委以政寧
戚飯牛於車下桓公任以國
孫弘閤閭之間傳說舟於不借人
西京席門乃是陳平相之舊宅南山
芝洞寧非嘉司徒之遺栖
周公旦者文王之子武王之弟自
知其貴忠仁公者皇帝之祖皇
后之父世推其仁
傳氏巖之亂雖夢雷於殿夢後
巖陵瀨之水猶泄澤於漢躬之初
春過夏闌嘉司徒之家雪應路達
旦南巷北鄭太尉之溪風波人知

やまさくらめをまくまをみつるかな
はるかちるくもをあるまふ

將軍

三尺劍之氷在手一張弓掛月當心
雪中敵馬初奪塞雲外同鴻欲射鵰
千里往來征馬疲十年離別故人稀
隴山雪暗李將軍之在家頻水滾

閑鞍征虜之未仕
城邊席未降拔武勇於漢田七將學
抽麟角逆味之事於魯二子著
雄劍玉鞘拔則秋霜三尺耀黃白
吟六寒玉一聲
地弓鋼鞭使北馬悉奔欲嘶人

たましゐもみにそはぬ君の方を
あけくれうらやハしとおもひし

暑夜

夜半蛙声夏月涼ハ丈夫寝不穏其
精明之蓋琲和似竹斜風吹細ハ軽
煌々白雲乗涼氣色来心更静々
此一夜月下金波小傍前之詩図

おり居りのりくみしはなやかなる
こゝのかきはゝきりいゝきり

涼夜

松晴雨過廣氏渡秋涼風吹亦秋
寅為翠葉樹葉落枝草鶏乳来羨黄
絶白露遥寒露口蓋尽初猫還龍紙
めくりいろはいかりあけましとおもふらん
こよせまたちぬめしころもして

王昭君

愁苦辛勤顦顇盡　如今却似畫圖中
身化早爲胡朽骨　家留空作漢荒墳
翠黛紅顔錦繡粧　泣尋沙塞出家郷
邊風吹斷秋心緒　隴水流添夜涙行
胡角一聲霜後夢　漢宮萬里月前腸

昭君若贈黄金賂　定是終身奉帝王
胡川晴後孤雲外　一點愁眉落月邊

わひしくはのやましなかくきえ
こさくろかきなやまん

妓女

容色似舊清爲仁之外　嫦娥宮調
花堂季理之小妹

下四十

去就已有新錦囊清賞先翁蕉窓

西湖邊之梅雲後於人與王能挑北洲吹達ら

於此時乃吾相古書跡之事而辭

梅西

竹斎米明梅西佩雲書宣陳翁聖人山

翠竹園為乃神清隱実無弟

似之一生 翁去就同

偽葉鷹潤濱澤鳥高橋吟雅佳入多感

志らば淡路の家に來の清水に世をすへ候

あまり古ま破屋とも書ま而考

老人

萬為無源於萬象之紀江澳濃縞

龍眠畢竟老錦衣病力先之慈亦錦達

乘之懶逃炊紀以不散華之試日人漸稀

紅葉黄落而残霜之暮色林巒隠陰柚
階前之時候也
少者秉燭之遊 於夜 猶有餘
緑竹百邑抱秋之出哉
古之賢主 国文 濁流之波無窮
騒人 墨客之 独 漢 画 高山之月 無眉

飛雁落燕影 隠而 寒雲黄昏 嶺
林巒 枝葉 尋常 凍霜 風 猛 力 松 綠
疎 葉 落 影 之 白 鷺 眠 思 錦 葉 渡 紅

ましらかんこゑ に る 新年むつひかそへみるにかなしき
ちよのかれよはまあかぬらす
以津久羽の身をはよせまし よの中に
おいをいとはぬ人しなけれハ

文政

琴詩酒友皆拖我雪月花時獨憶君
陽春曲調高難和漢水交情老始知
昔年顧我長看眼今日逢君已白頭
蘭會稽昔之過古廟徘徊繁代之交
張僕射亡重新推為忘年交
裴文籍後同君少官礼部貧我新

[illegible]
むかしの世にもあるべけれ
なきをもしぬるのちにもむかしの人
[illegible]

懐舊

黄壤誰知我白頭獨憶君唯將老
李渡一灑故人文
長夜君先去殘年我幾何秋風

滿秋濺泉下故人多
往事眇茫都似夢舊遊零落半歸泉
蘇州舫故龍頭暗王尹橋傾鷹嘴斜
金谷醉花之地花每春白而主不歸
南樓翫月之人月与秋期而身何去
王子晉之昇仙後人立祠於緱嶺
之月羊太傅之旱世行客墜淚
於峴山之雲
但鈴良木其權歎遺愛甘棠勿剪謠
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

述懷

專諸荊卿之感激度生豫子之投
身心爲恩使命依義輕
范蠡收責句踐棄扁舟於五湖各
犯謝罪文公忘逡巡於河上
翫其磧礫不窺玉淵者不知驪龍
所蟠習其弊邑不視上邦者未覺
雄之所踞
人間禍福愚難斷世上風波老不禁
車馬驕痴駕駑駘逸禽上鷹閑鳥雀高
事之無成身也老醉鄉不去欲何歸
范蠡收責棹扁舟而逃名謝安辭切

伏孤雲而養志
昇殿是家外之選也俗骨不可以躋
蓬萊之雲尚書之天下之望也肩
不可以攀基岡之風
鈴豆顔馳過三代而猶沉恨周伯鸞
歌五噫而將去

言下暗生消骨次嗟中倫銳刺人刀
載鬼一車何足畏掉至三徒未為免
楚三閭醒終何益周伯吏飢未必賢
なぬ[illegible]てあれいらるるにいめん
とうのかはりはもやうく
よの中はよてもいくてをはるこれ
ゑをいろ屋をはてしをけ迷ハ
かりけりあるくみゆるよの中ハ
うゑをすくをすめ月ふ

慶賀

劒佩曉趨雙鳳闕煙雲波裏宿一漁船
錢塘去國三千里一道風光任意看
想得江南諸父老因君鞭撻子孫多
吏部侍郎職侍中一番緋袍出禁衛宮
銀魚曉度鐘聲春滸後鶴衣間舞曉風

花月一窓文苑眼雲泥万里賜今窮
荀躬還恥相知久君是當初行馬童
うゑ[illegible]むりはうてにつみ計る
ちまいハ方みをあまりぬるか

祝

嘉辰今月歡無極万歲子秋樂未央
長生殿裏春秋富不老門前日月遲

わのこゝろは無
いとなたちてこゝ
ろの何世とゝ
あめ

忘

貴業志高者
者多書錦者見
文業報恩者

園屋書画芸
門文見屋
書風桃李
夕屋
南郷小路
と一
序

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

雲霧沙霧時一方雲峰煙樹遠橋潮時雲
ゆきかへるけてむめの花かな

和漢朗詠集為下

延文元年七月廿日為僧之手本所
書与也孫刷業鮮石丁御余永
為家孫一方為業而已

祖師大柔院贈一品大日本法編慈燈
慈鏡円加奥書於内為恐々　准三宮

衣棚寄接二條下ル町

柾屋

正保五年四月十一日

西村次郎兵衛板

写